

第2章 基本構想

策定の趣旨

自信と誇りをもって次世代につなげられる故郷^{ふるさと}黒石市を目指します。具体的には次のまちを目指します。

- 市民の黒石力¹⁾を結集し、地域コミュニティの維持と産業の振興により働く場所が確保されることで、誰もが活躍する自立したまちになります。
- 歴史と伝統が息づく街並みには市内外から人が集まり、新たな交流と憩いの場が生まれ、元気なまちになります。
- 人口減少を緩やかにしつつ、子どもたちが希望を持って成長し、誰もが健やかで安心して暮らせる、あずましいまちになります。

策定の理由

市民の黒石力を結集するには、まずは黒石の強みや課題への共通認識を持ち、これからのまちづくりについて市民自らが考え、理想を共有しなければなりません。

私たちはこの度の総合計画基本構想を、今後数年間のまちづくりにおいて、市民全員が理想を共有するツールと位置づけ、策定することとしました。

策定にあたってのルール

- 他の計画や財政状況との整合性を保ち、期間内で実効性のある計画とすること。
- 従来の形式にとらわれず、シンプルで分かりやすい計画とすること。
- 計画の各段階において市民との情報共有を図ること。

キャッチフレーズ

「いくつになっても住みよいまち 次世代につなぐ故郷^{ふるさと} くろいし」

子どもから高齢者まで全ての市民が住みやすいまちを、今の世代だけではなく次の世代にもつないでいきたいというキャッチフレーズです。

計画期間

2019年度(平成31年度)から2024年度まで(6年間)

1) 黒石力とは、市民を始め地区協議会、行政、その他黒石市と関係のある個人・団体が、地域の価値を高めたり、課題を解決したりするなど、地域の活力を高めていく総合的な住民の力のことです。

まちづくりの目標

● 自立したまち

① 地域コミュニティの活性化で自立したまち（協働）

「黒石力」の結集により地域コミュニティを活性化させ、地域のことは地域で考え行動する住民主体のまちづくりの実現に向けて取り組みます。

また、地域住民が主体となり、地域の課題をビジネスチャンスとするコミュニティビジネスの展開を図ります。

② しごとづくりで自立したまち（産業振興）

基幹産業である農林水産業が更に魅力ある産業へと成長するため、農産物のブランド化、新品目の導入拡大、生産性の向上、後継者の育成により、経営の安定化を図ります。

また、黒石インターチェンジを活用して、物流の最適化に資する事業展開を促し、地域産業の活性化を目指します。

市内における雇用の創出を図ることで、若者の地元就職、地元定着の促進に努めます。

● 元気なまち

① 歴史と伝統を活かした元気なまち（文化）

中心市街地には黒石の歴史や文化を支えてきた「こみせ」など歴史的資産があり、それらを保存・再生し観光資源として情報発信することで誘客拡大を図ります。

② 新たな拠点で人がにぎわう元気なまち（環境）

中心市街地に図書館や市民サービス施設等を整備することで、市民が気軽に集える「学び」や「憩い」の場を創出します。

③ 移住人口・交流人口の拡大で元気なまち（観光）

黒石ねぶた・黒石よされなどの祭り、湯治場として栄えてきた黒石温泉郷の魅力を発信するとともに、インバウンドにも対応したまちづくりを行い、交流人口の増加を図ります。

安心なまち

①子育て支援と教育環境の充実で安心なまち（子育て・教育）

本市の未来を担う子どもたちが、黒石市で生まれ、希望を持って成長し、その希望をふるさと黒石の地で実現できるよう、家庭、学校、地域を挙げた取組を進めます。

そして、広い世界観を持ち、文武両道を重んじ、常に思いやりの心を大切にする人づくりに努め、子どもたちの希望をかなえるための「学び」の環境を整える取組を進めます。

②高齢者福祉の充実で安心なまち（福祉）

本市では高齢化が進んでおり、介護予防を柱とすることで、より多くの高齢者が可能な限り自立した日常生活を送れるように、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

また、介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう地域包括ケアシステム²⁾を始めとする地域福祉の充実に努めます。

③健康づくりの推進で安心なまち（健康・福祉）

平均寿命と健康寿命を伸ばすため、「黒石市健康都市宣言」に基づき、市民一人ひとりの健康的な生活習慣づくりや心の健康づくり、スポーツを通じた健康づくりなどを促進する取組を進めます。

④みんなが暮らしやすい安心なまち（安全・安心）

地震や豪雨による災害、事故などの危険から市民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト両面から取組を進めて、危機管理や防災体制の強化を図ります。

施設や道路のバリアフリー化に加え、除雪、子育て支援、障がい者福祉、観光客や外国人への対応など、各分野における市の取組を整理し、年齢や性別、心身の状態、言語の違いなどにかかわらず、誰もが利用しやすい安心・安全のユニバーサルデザイン³⁾のまちづくりに努めます。

将来像

自立したまち、元気なまち、安心なまち、それぞれのまちづくりの目標の実現に向けて取り組むことで、市民の黒石力が結集して、市や地域コミュニティを始めとする様々な団体が活性化することになり、子どもから高齢者まで全ての市民が安心して暮らすことができるようになります。そして長く暮らせば暮らすほど、黒石市の歴史や文化を知ることができ、子どもたちが夢を持って成長し、後世に受け継いでいくことにもつながります。そうすることで、持続可能な一体感のある強いまちになります。

2) 地域包括ケアシステムとは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるしくみのことです。

3) ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、身体など、個々の人の特性や能力に関係なく初めから全ての人が利用しやすいように、まちや建物、製品、環境、サービスなど、社会全体を見直して改善していくという考え方です。

第6次黒石市総合計画 体系図

● キャッチフレーズ

「いくつになっても住みよいまち 次世代につなぐ故郷^{ふるさと} くろいし」

まちづくりの目標

分野

自立したまち

- ①地域コミュニティの活性化で自立したまち（協働）
- ②しごとづくりで自立したまち（産業振興）

元気なまち

- ①歴史と伝統を活かした元気なまち（文化）
- ②新たな拠点で人がにぎわう元気なまち（環境）
- ③移住人口・交流人口の拡大で元気なまち（観光）

安心なまち

- ①子育て支援と教育環境の充実で安心なまち（子育て・教育）
- ②高齢者福祉の充実で安心なまち（福祉）
- ③健康づくりの推進で安心なまち（健康・福祉）
- ④みんなが暮らしやすい安心なまち（安全・安心）

● 目指すまちづくりのすがた

○市民の黒石力が結集して、市や地域コミュニティを始めとする様々な団体が活性化し、子どもから高齢者まで全ての市民が安心して暮らすことができるようになります。

○長く暮らせば暮らすほど、黒石市の歴史や文化を知ることができ、子どもたちが夢を持って成長し、後世に受け継いでいくことにもつながります。

⇒持続可能な、一体感のある強いまちになります。